

の木を第一とし、檜の木樟腦尤よし、島の風俗、上世のかた残りて、島人琉球のごとく有髮の者多し、半は琉球の風有りと云々、

此島へ旅人の渡る事國禁にて、予河辰も渡海せず、浦々にて屋久の島へ渡らんと聞は、尋よりて島風を聞き事也、信じがたき事は爰に記さず、

〔日本書紀推古二十〕二十四年三月、掖玖人三口歸化、五月、夜句人七口來之、七月、亦掖玖人二十口來之、先後并三十人、皆安置於朴井、未及還皆死焉、

〔日本書紀舒明二十三〕元年四月辛未朔、遣田部連名闕於掖玖、二年九月、是月田部連等至、自掖玖、三年二月庚子、掖玖人歸化、

〔日本書紀天武二十九〕十一年七月丙辰、多禰人掖玖人、阿麻彌人、賜祿各有差、  
〔續日本紀文武一〕三年七月辛未、多檄夜久、菴美、度感等人從朝宰而來貢方物、授位賜物各有差、八月己丑、奉于南島獻物于伊勢太神宮、及諸社、

〔續日本紀孝謙九〕天平勝寶六年正月癸丑、太宰府奏、入唐副使從四位上吉備朝臣眞備船、以去年十二月七日來、著益久島、自是之後、自益久島進發、漂蕩著紀伊國牟漏埼、

〔倭名類聚抄十九〕鱗介錦貝 辨色立成云、錦貝夜久乃斑貝、今按、本文未詳、但俗說、西海有夜久島、彼島所出也、

〔萬國夢物語下〕自夫南大隅ノ地ニ行、此國東南西南三方皆海也、北ニテ東ハ日向、西ハ薩摩、北ハ肥後也、東南海中廿里計ヲ隔テ種島其西ニ夜久島アリ、氣候南ノ端ニテ、鹿兒島ヨリモ又南ナレバ、餘程暖國ナリ、

〔西遊雜記三〕漸十七日に大隅に入りし也、此國も日向と同じ風土にて、上方筋中國筋にくらべ思へば、何といはんやふなき下國にて、人物言語賤敷諸品不自由也、大隅は東西せまく、南北長き山

國にて、東は日向、西は薩摩、南は海、北へは長々と肥後の求摩郡まで入込し國也、國中にさして一

地勢  
氣候